

ポリシー・計画／実績

Policy・Planning /Progress

■ 環境安全ポリシー

製薬協の企業行動憲章において「環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の活動と存続に必須の要件であることを認識して、自主的、積極的に行動する」こと、また「安全で豊かな労働環境を実現する」ことを制定しています。2005年2月に改定した「製薬協企業行動憲章 実行の手引き」では、憲章の各項目について、それが求められている背景、企

業の基本的な心構え・姿勢、具体的なアクションプランの例を記載し会員企業の自主的な実践を推進しています。

製薬協環境安全委員会では、これをさらにブレイクダウンし、主要なテーマについて年度計画を策定して目標を明確に示すとともに、進捗状況を毎年フォローアップし会員会社にフィードバックしています。

製薬協企業行動憲章(抜粋)

製薬協企業行動憲章(2004年11月17日公表)は、会員企業が企業行動憲章の精神を尊重し、自主的に実践していくことを申し合わせる13の項目を制定しています。

(全文は製薬協ホームページ)

<http://www.jpma.or.jp/policy/kensyo.html> 参照)

また、会員企業が憲章の精神を理解し、自主的に社内徹底を行い実践していくための参考として憲章の各項目について解説を加えた「製薬協企業行動憲章実行の手引き」を策定しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の活動と存続に必須の要件であることを認識して、自主的、積極的に行動する。

1.省エネルギー・地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策、化学物質管理等の取り組み

「持続可能な発展」の次世代への継承は人類共通の課題であり、今を生きる私たちの社会的な責任である。企業は事業活動が地球規模の資源問題、温暖化問題、環境汚染問題に深く係わることを認識し、循環型経済社会の構築、温室効果ガスの削減、化学物質の管理等に努力する。また、製薬協で制定した環境に関する自主行動指針に沿って企業は環境保全に向けた自主的・継続的な取り組みを強化する。

2.組織運営体制の強化および環境負荷と環境リスクの低減

研究・生産・営業から廃棄に至る事業活動の全段階において、システム的に環境影響を評価し、各段階における環境負荷・リスクを洗い出し、強固な組織運営体制により、その低減に努める。また、環境コミュニケーションに努め、地域社会との協働・共生を促進する。

3.生物多様性の保全を含む自然保護活動の取り組み

大気圏や生物圏、あるいは水の循環圏などについて、一層理解を深めるとともに、人類にとって多様な生物が共存することが、豊かな生活環境をもたらすことを改めて認識し、多様な自然環境の保全を重視した自然保護活動を推進する。

従業員の多様性・人格・個性を尊重するとともに、働きがいのある、安全で豊かな労働環境を実現する。従業員の倫理観の高揚と資質の向上を図ることは企業の責務である。

1.従業員の安全と健康の確保は企業経営において優先されるべき事項である。

経営トップの率先垂範の下に「安全第一主義」を徹底し、労働安全衛生対策が企業内で自立的に促進される体制作りを努める。



2004年度活動実績/2005年度計画

環境安全委員会は企業倫理の徹底と法令遵守を基本とし、様々な環境問題や労働安全衛生に係る課題から、製薬会社として関連の深い項目については、業界が自主的に管理するテーマとして取り上げ、環境安全委員会の年度計画に掲げて活動を推進しています。化学物質管理、地球温暖化防止、廃棄物管理

などの直面する課題については、自主管理目標を設定し専門部会活動を通じて、会員各社の活動を推進するとともに、医療関連廃棄物の取り扱いなどの中長期課題については、関係する他団体とも連携を取りながら計画に則って積極的に展開しています。

専門部会活動

継続的な活動テーマについては、製薬企業としての独自性を追求しながら具体的な活動項目に落とし込んでいます。

「PRTR 調査活動の推進」「第2期有害大気汚染物質自主管理計画の推進」「環境マネジメントシステムのフォローアップ」「労働安全衛生マネジメントシステムの導入検討」「省エネルギー・地球温暖化防止に関する調査」「製薬企業の廃棄物処理実態調査」等について部会毎にワーキンググループを編成

して取り組み、自主管理活動計画の目的達成のための進捗管理ならびにフォローアップを行いました。

また、各種調査結果や事例集等、成果としてまとめられる情報は「製薬協環境安全委員会2004年度成果報告集」として4部会の活動成果を合わせてCD-Rに取りまとめ、会員会社に配布しました。

	2004年度活動実績概要	2005年度活動計画
環境安全 マネジメント部会	<ul style="list-style-type: none"> ●環境ISO14001規格改訂・医薬品製造設備の安全評価に関して技術研修会を開催。 ●環境マネジメントシステムフォローアップ「環境マネジメントと評価基準」16年度改訂版の作成 ●「廃棄物処理に関する監査チェックリスト」の作成 ●環境及び労働安全衛生マネジメントシステム導入状況等に関する調査とりまとめ ●労働安全衛生マネジメントシステム導入のための「労働安全衛生マネジメントシステム導入手引」を作成 ●環境報告書の作成支援の一環として環境関連報告書発行に関するアンケートを実施。 	<p>環境・労働安全衛生マネジメントシステムに関する新しい取り組みや評価方法についての情報提供や支援を中心に、調査や研修会を計画。労働安全衛生マネジメントシステム導入普及のため、「労働安全衛生リスクアセスメントマニュアル作成手引書」を作成。</p> <p>また、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションツールとしての環境報告・社会性報告の実態調査とトレンドについての検証。</p>
省資源・ 廃棄物対策部会	<ul style="list-style-type: none"> ●2004年度の廃棄物発生・処理実態調査を実施。 ●製薬協の廃棄物削減目標を改訂（最終処分量30%→20%） ●廃棄物削減および廃棄物の適正処理に関する部会内研修会を実施。 ●3R表彰会を公募、日薬連に会長賞3社を推薦した。 ●在宅医療廃棄物、特に飲み残り医薬品について適正な処分方法を検討。 	<p>日本経団連環境自主行動計画に連動した調査および自主管理活動を継続し、フォローアップ情報を発信。</p> <p>また、医薬品に係わる廃棄物問題（抗がん剤等医薬品の廃棄方法等）については、医療機関や行政とも連携し協働で取り組む。</p>
省エネ・ 温暖化防止部会	<ul style="list-style-type: none"> ●日本経団連環境自主行動計画2004年度フォローアップ調査に合わせ製薬企業の省エネルギー・温暖化対策調査の実施 ●新エネルギー有効活用をテーマに省エネ技術研修会を開催 	<p>個別企業レベルでのCO₂排出削減目標達成に向けた適切な削減方策立案に役立つ技術面や施策面での広汎な情報の提供を行うとともに、業界の事業特性や実態および対策の紹介など、業界外とのコミュニケーション活動も積極的に実施する。</p> <p>製薬企業の省エネルギー・温暖化対策調査の実施、GHG排出量削減対策に関するセミナー開催および製薬企業向けGHG排出量算定ガイドライン作成を計画。</p>
化学物質管理部会	<ul style="list-style-type: none"> ●有害大気汚染物質自主管理計画(第2期)3年目のフォローアップ調査結果の報告書を発行。 ●有害大気汚染物質削減対策に関する調査を実施、報告。 ●2004年度PRTR調査結果を報告。 	<p>PRTR調査を継続し、化学物質の自主的な排出抑制対策を推進する。有害大気第3期自主管理計画を策定しさらに大気排出量の削減を目指す。</p>

研究会活動

環境安全委員会の活動項目として具体的な目標設定化のレベルに至っていない中長期的なテーマや製薬会社の事業活動のなかで手法が確立していないツール等については研究会課題とし、事例研究や活用策を検討しています。2005年度も引き続き、製薬企業にとって役立つ環境会計手法の研究、

製薬企業の京都議定書への対応策および調査検討、リスクコミュニケーション・リスクアセスメントに関する研究、ライフサイクルアセスメントの活用に関する研究の4つの研究会の活動を継続して推進していきます。